

1. 事業細目：バス資源抑制対策実験事業費

予算額 5,000千円

2. 研究名：改良カゴ漁具によるオオクチバス等の捕獲試験

予算区分 国 委

3. 研究期間：平成元年度～3年度

4. 担当者：大江、桑村、太田（滋）

5. 目的

オオクチバスおよびブルーギルを効率的に捕獲するため、カゴ漁具類の改良や誘引物質の添加について検討する。

6. 方法

(1) 改良漁具等の種類と内容

タッペ：改良

ア) 竹格子間隔を1cmに狭めたもの（細目）

イ) 通常の竹縦格子に3cm間隔に横糸を張ったもの（横糸）

タッペ：誘引物質（従来型の漁具を使用）

ア) ウナギ用粉末餌料にサナギミンチを同量混合し50gを用いたもの（練餌）

イ) 豚脂身を用いたもの（豚脂）

ウ) 1ℓの透明容器にコイ科の小鱼（4～5

cm）5尾を用いたもの（活魚）

カゴ網：改良

ア) 扁平な侵入口を筒状（ロート状）にしたもの（筒状）

カゴ網：誘引物質

タッペに同じ

(2) 実施場所

蒲生郡安土町下豊浦地先の西の湖

(3) 調査時期

90年7月、11月、91年1月の3回実施

7. 結果の概要

○タッペの改良 オオクチバスでは、3次にわたる捕獲で従来型が2尾、細目3尾、横糸1尾が捕獲されたが、漁具100個当たりの捕獲割合で見ると細目が優位性を示した。

ブルーギルでは、従来2尾、細目3尾、横糸5尾が捕獲され、捕獲割合からは横糸の優位性が認められた。

○カゴ漁具の改良

オオクチバスに対しては、筒状で13尾が捕獲され、従来型の1尾に対し高い捕獲効率が認められた。

ブルーギルでは、筒状が505尾捕獲され、従来型の2.6倍の捕獲が得られた。

○誘引物質

・練餌

オオクチバスは、タッペ、カゴ網のいずれの漁具でも1尾も捕獲できなかった。このことから、練餌では効果がないことがうかがえる。

ブルーギルでは、タッペで10尾、カゴ網で247尾が捕獲され、練餌に対し強い効果を発揮することがわかった。

・豚脂身

オオクチバスは、タッペでは1尾も捕獲さ

れなかったが、カゴ漁具では3尾捕獲された。カゴ網の従来型に比べて捕獲率が高い。

ブルーギルでは、タッペで3尾の捕獲であったが、カゴ漁具では208尾捕獲され、従来型に比べ1.7倍の捕獲が得られ誘引効果が期待できる。

・活魚

オオクチバスでは、タッペ、カゴ網とも1尾の捕獲であった。

ブルーギルでは、カゴ網の従来型を下廻る捕獲量であった。

これらは、試験水域の低い透明度が影響しているものと思われる。

・捕獲体型

タッペの従来型やこれに誘引物質を入れたものでは、ブルーギルの体型と目合の関係からすれば脱落する体型のものもあったが改良型では小型魚も捕獲可能となり一応の効果が得られた。

8. 主要成果の具体的データー



オオクチバス
 ブルーギル
 その他の魚類

[第1~3次各漁具30個換算]
 合計 各漁具100個換算

図1 カゴ漁具設置場所

表1 漁具別の捕獲効率

漁具 100 個当たりの捕獲割合			
魚種	オオクチバス	ブルーギル	他の魚
タ	従来	1.4	0
	細目	8.3	2.8
	横糸	2.2	0
ツ	練餌	0	0
	豚脂	0	13.3
	活魚	6.7	8.7
ベ	従来	142.1	9.0
	筒状	348.0	3.4
	練餌	352.8	2.9
カゴ網	豚脂	244.7	9.4
	活魚	107.9	10.5
	従来	32	3.150

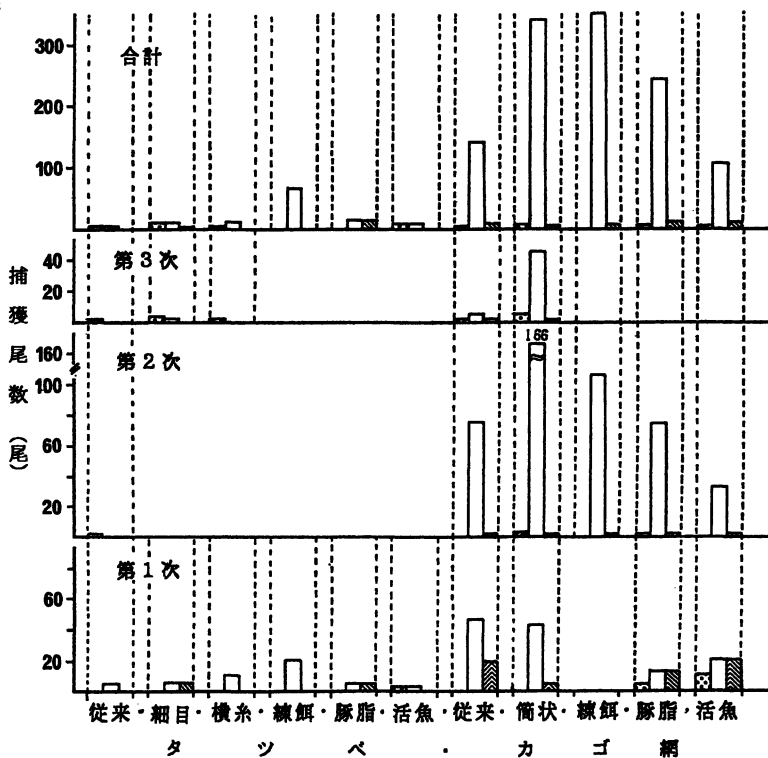


図2 改良漁具による捕獲試験

9. 今後の問題点

漁具改良で一応の成果が得られたが、改良型と誘引物質との相乗効果について検討する必要がある。

10. 次年度の具体的計画

漁具・漁法の補完調査

外来魚資源抑制対策マニュアルの作成